

基本構想検討シート：観光分野

1 観光分野における国・都の動き

■国の現状

- ①平成28年の訪日外国人旅行者数は2,404万人となり過去最高を記録した。
- ②平成28年のアジアからの訪日旅行者は2,010万人であり、全体の8割に達している。
- ③平成28年の訪日外国人旅行者による日本国内における消費額は、3兆7,476億円となり過去最高を記録した。
- ④平成28年の国際会議の開催件数は410件であり、世界第7位となっている。
- ⑤平成28年の国内の宿泊施設における外国人延べ宿泊数は7,088万人泊で、そのうち地方部は2,845万人泊で、前年比13.2%の増となっている。
- ⑥平成28年の国内旅行消費額は20.9兆円で、平成22年以降横ばいで推移している。

■国の目標

項目	目標
訪日外国人旅行者数	2020年 4,000万人、2030年 6,000万人
訪日外国人旅行消費額	2020年 8兆円、2030年 15兆円
地方部での外国人延べ宿泊者数	2020年 7,000万人泊、2030年 1億3,000万人泊
外国人リピーター数	2020年 2,400万人、2030年 3,600万人
日本人国内旅行消費額	2020年 21兆円、2030年 22兆円

<資料> 観光庁「平成29年版観光白書」
「明日の日本を支える観光ビジョン－世界が訪れたい日本へ－」(平成28年)より作成

■国における取り組みの方向性

- ①歴史・文化施設、公園等の観光資源の魅力向上と新たな観光資源の開拓
- ②訪日プロモーションの戦略的高度化や多様な魅力の対外発信強化、DMO※1の設立をはじめとする、質の高い観光サービスを支える観光産業の革新
- ③ユニバーサルデザインの推進、最先端技術の活用など、全ての旅行者が快適に観光を満喫できる環境の整備

※1 DMO
地域の観光産業、自治体住民が一体となって地域の観光振興に取り組む法人

■都の現状

- ①平成28年の訪都国内旅行者数は約5億1,430万人で、前年比240万人減となったが、訪都外国人旅行者数は約1,310万人となり、過去最高を記録した。
- ②平成28年の都内における観光消費額は約5兆7,000億円で、過去最高となった前年と比べて2,000億円の減となっている。
- ③平成28年の都内における外国人旅行者の観光消費額は1兆880億円となり、前年比で270億円の減となっている。
- ④平成27年の都内における国際会議の開催件数は249件であり、この10年間で約4.3倍に増加している。

■都の目標

項目	目標
年間訪都外国人旅行者数	2020年 2,500万人、2024年 3,000万人
年間訪都外国人旅行者のリピーター数	2020年 1,500万人、2024年 1,800万人
年間訪都外国人旅行者による消費額	2020年 2.7兆円
年間国際会議件数	2024年 世界トップスリーに入る330件

<資料> 東京都「都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン」(平成28年)
東京都「PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン2017～」(平成29年)
東京都「東京都観光客数等実態調査」(平成27年、平成28年)より作成

■都における取り組みの方向性

- ①消費拡大に向けた観光経営
- ②集客力が高く良質な観光資源の開発
- ③観光プロモーションの新たな展開
- ④MICE※2誘致の新たな展開
- ⑤外国人旅行者の受入環境の向上
- ⑥日本各地と連携した観光振興

※2 MICE
企業等の会議、学会等が行う国際会議、展示会・見本市など多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

2 観光分野におけるこれまでの区の取り組み

■基本構想における位置付け

【将来像】 にぎわいと活力のまち 【基本目標】 まちの魅力の創出

- ・台東区には、史跡、芸術、芸能などの豊富な文化資源や多彩な行事があり、国内外から多くの来街者を迎えてきた観光地があります。
- ・台東区は、この特徴を活かして、文化性豊かな国際観光都市として、魅力のより一層の向上をめざし、観光の振興をはかっていきます。
- ・この基本目標を実現するために、的確にニーズをとらえ、多様な観光資源の一層の充実と来街者が回遊しやすい基盤づくりを進めます。
- ・国内外へ情報を発信するとともに、快適な環境整備を推進し、国際観光都市としての総合力を高めていきます。

■台東区観光振興計画 ～躍進台東 2020年に向けて～

【目標とする姿】 本物に会えるまち

【基本方針】

- ①台東区が有する多面的な魅力要素に光を当てる ～多面的な観光魅力の創出と磨き上げ～
- ②区民の生活向上を意識した観光の基盤を実現する ～利便性と快適性を兼ね備えた観光の基盤づくり～
- ③地域に対する愛着や誇りといった意識の醸成を図る ～地域への愛着・誇りに基づくおもてなしの向上～
- ④多様な来訪者に対して台東区の魅力を的確にアピールする ～的確で細やかな情報発信・プロモーションの実施～
- ⑤地域が一体となって観光に取り組む ～地域が一体となった観光振興への取り組み～

■基本構想策定（平成16年）からの主な取り組み

①観光に関する情報の収集と分析

- 台東区の観光に関する動向やニーズを分析する観光統計・マーケティング調査の実施

②観光案内と情報発信の充実

- 浅草文化観光センターのリニューアルオープン
- 浅草文化観光センターで4か国語（日・英・中・韓）による案内を実施
- 海外の旅行博覧会等でのシティーセールスを実施
- 観光ウェブサイトのリニューアル及び英語版観光ウェブサイトの開設

③観光資源の活用と拡充

- 映画やテレビを通じて区の魅力を国内外に発信するフィルム・コミッション等を実施
- 映画祭、演劇祭の開催

④地域のネットワーク化推進

- 浅草東参道二天門防災船着場の一般開放を開始
- 水辺空間の魅力向上を図るため、隅田公園にオープンカフェを設置

⑤何度も訪れたいくなる仕組みづくり

- 台東区が有する多彩な観光資源をテーマごとにコース化した観光マップを作成

⑥来街者にやさしいまちづくり

- 観光客がインターネットから容易に情報を入手できる環境を整備するため、区の観光案内板などにWi-Fi環境を整備
- 観光バスに関する条例の制定や観光バス予約システムの導入

⑦ふれあいとおもてなしの人づくり

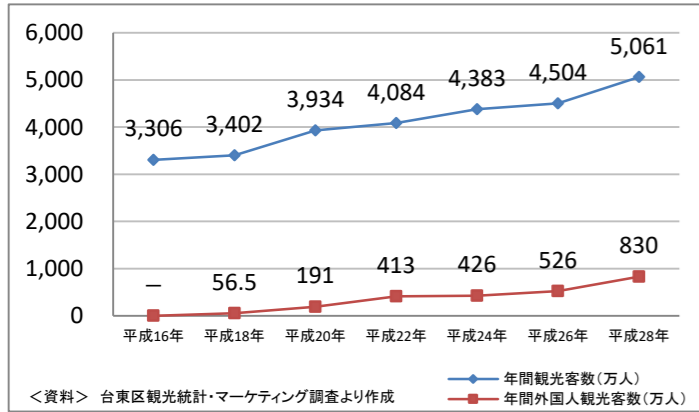
- 観光客に対するおもてなしや満足度の向上を図るため、観光ボランティアガイドを育成
- ムスリム観光客への対応など、言語や宗教、文化を尊重した受入体制を整備

基本構想検討シート：観光分野

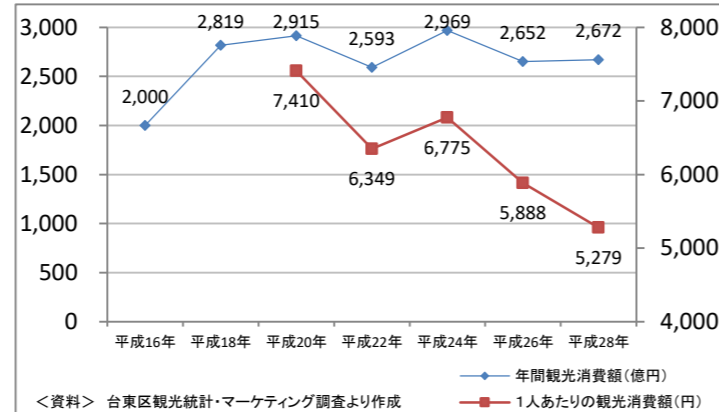
3 区の現状

- ①平成28年の外国人を含む台東区の観光客数は5,061万人と、過去最高を記録したものの、観光消費額は約2,672億円にとどまり、1人あたりの観光消費額も減少傾向にある。（図表1、図表2参照）
- ②平成28年の日本人観光客の平均滞在時間3時間以上の割合は53%であり、平成18年からほぼ横ばいである。（図表4参照）
- ③平成28年の日本人観光客のリポート率は83.3%である。（図表5参照）
- ④平成28年の外国人観光客は830万人で、平成26年の526万人から大幅に増加している。また、中国や東南アジアのほか、欧州や北アメリカなど様々な国や地域から外国人観光客が訪れている（図表1、図表3参照）。
- ⑤台東区バリアフリー特定事業計画に定める公共交通特定事業の進捗率は、平成28年度末時点で、63.3%となっている。
- ⑥平成28年の調査では、日本人観光客が台東区で残念だったこととして、トイレ、人の多さ（混雑）、まちの景観・美観・ごみが上位となっている。
- ⑦平成28年の調査では、外国人観光客が台東区で残念だったこととして、人の多さ（混雑）、Wi-Fi環境、自転車のマナーが上位となっている。
- ⑧平成27年の調査では、観光客が増えることに対して好意的な区民の割合は77.9%である。
- ⑨平成27年の調査では、観光客が訪れることで心配するマイナスの影響として「騒音やごみ」、「治安の悪化」、「交通渋滞や路上駐車」との回答が多くなっている。
- ⑩近年では浅草地域等における観光バスの流入が増加しており、観光バスによる交通事故が発生している。

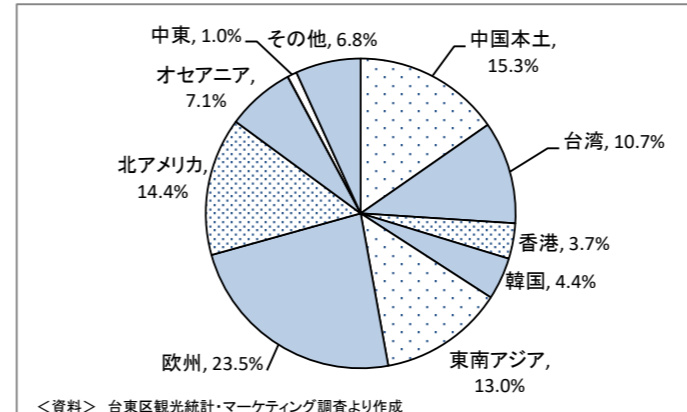
【図表1】観光客数の推移



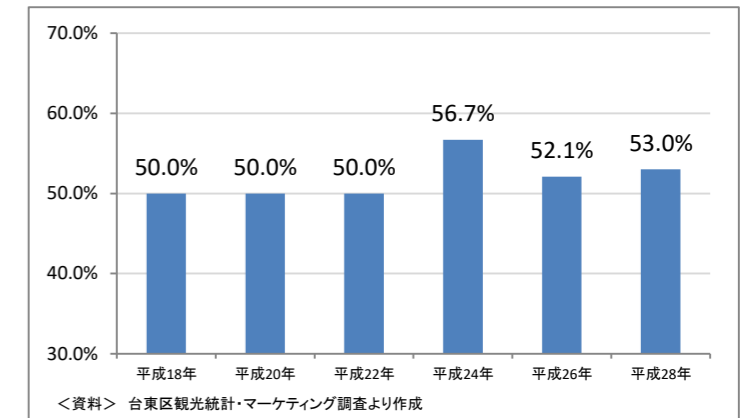
【図表2】観光消費額の推移



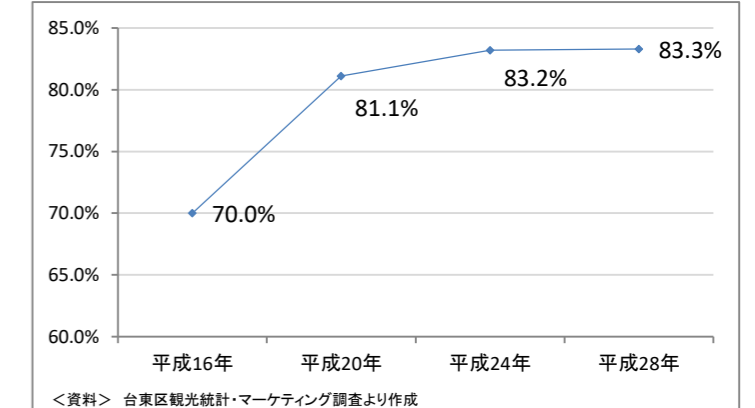
【図表3】外国人観光客居住国確認調査結果



【図表4】平均滞在時間3時間以上の割合の推移



【図表5】日本人観光客のリポート率の推移



4 区の抱える課題

- ①観光消費額を上げるため、区内の回遊性向上を図る等により、観光客の区内における滞在時間の拡大につなげ、観光活動や消費活動を活性化させていく必要がある。
- ②人口減少と少子高齢化の進行により、国内旅行市場の縮小が見込まれており、観光客の再来訪を促す取り組みが必要となっている。
- ③様々な国や地域から観光客が訪れており、観光客の特性や嗜好を踏まえた誘客に取り組む必要がある。
- ④他自治体と連携して互いの魅力を発信し、観光客の誘致を進める取り組みが必要となっている。
- ⑤本区の観光振興をより強力に一体的に推進するためには、観光関係団体をはじめ多様な事業者や区民などとの連携・協力体制を充実させる必要がある。
- ⑥外国人観光客や高齢者、障害者など、誰もが快適に過ごすことができる受入環境の整備に取り組む必要がある。
- ⑦観光客が訪れることで心配するマイナスの影響として、騒音やごみ、治安の悪化等といった回答が多くなっており、区民と観光客の相互理解を促進していく必要がある。
- ⑧観光バスの流入増加による交通渋滞や路上駐車、交通事故の危険性を解消するため観光バス対策を推進するなど、区民と観光客がともに安心安全に過ごせる環境を整備する必要がある。

5 課題解決に向けた施策の方向性(案)

- ①一日中滞在を楽しめる仕組みづくり（課題①に対応）
- ②多面的な観光魅力の創出と磨き上げ（課題②に対応）
- ③戦略的なプロモーションの展開（課題③④⑤に対応）
- ④誰もが安心して快適に観光できる環境整備（課題⑥に対応）
- ⑤区民と観光客との共生（課題⑦⑧に対応）

6 20年後の望ましい姿

審議会での検討後、小委員会第3回で提示